

県立高等学校教育の在り方検討会議
(第1回)

日時：令和5年6月8日(木)
13時30分～16時
会場：岩手県公会堂 26号室

次 第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 構成員紹介
- 4 趣旨説明
- 5 議題
 - (1) 座長及び副座長の選任について
 - (2) 県立高校の現状等について
 - (3) 現行計画の推進状況について
 - (4) 中学生の進路希望等に関するアンケートについて
 - (5) その他
- 6 閉会

県立高等学校教育の在り方検討会議 構成員名簿

(敬称略・順不同)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
石 堂 淳	岩手県立大学理事・名誉教授	
嶋 野 重 行	盛岡大学短期大学部教授	
田 村 忠	岩手大学教育学研究科特命教授	
佐々木 幸 寿	東京学芸大学理事・副学長・教職大学院長	
松 田 淳	岩手県立大学宮古短期大学部長	
高 橋 一 佳	岩手県高等学校長協会長 岩手県立盛岡第一高等学校長	
菊 池 郁 聡	岩手県高等学校長協会常任理事 岩手県立盛岡農業高等学校長	
近 藤 健 一	岩手県特別支援学校連絡協議会長 岩手県立盛岡視覚支援学校長	
中 屋 豊	岩手県中学校長会長 盛岡市立厨川中学校長	
川 上 博 基	岩手県高等学校PTA連合会長	
岩 舘 智 子	一般社団法人岩手県PTA連合会顧問	
山 本 正 徳	岩手県市長会 宮古市長	
鈴 木 重 男	岩手県町村会長 葛巻町長	
多 田 英 史	岩手県市町村教育委員会協議会長 盛岡市教育委員会教育長	
中 嶋 敦	一戸町教育委員会教育長	
田 口 幸 雄	一般社団法人岩手経済同友会代表幹事 株式会社岩手銀行代表取締役会長	
久 慈 竜 也	岩手県産業教育振興会常任理事 株式会社久慈設計代表取締役	
小野寺 敬 作	岩手県農業協同組合中央会代表理事会長	
大 井 誠 治	岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長	
法 貴 敬	岩手県情報サービス産業協会会長 株式会社アイシーエス代表取締役社長	
菅 野 祐 太	認定特定NPO カタリバディレクター 兵庫教育大学大学院准教授	
菊 池 広 人	特定NPO いわてNPO-NETサポート 理事・事務局長	
計	22 名	

県立高等学校教育の在り方検討会議開催要綱

(目的)

第1 「今後の高等学校教育の基本的方向」(平成22年3月策定、平成27年4月改訂)の改訂から8年が経過し、社会の変化や今後一層進むことが見込まれる生徒数の減少を踏まえた今後の県立高等学校教育の在り方の検討を行うにあたり、広く有識者からの意見を伺うため、県立高等学校教育の在り方検討会議(以下「検討会議」という。)を開催する。

(所掌事務)

第2 検討会議は、次の事項について所掌する。

- (1) 「新たな県立高等学校再編計画」の推進状況に関すること。
- (2) 今後の高等学校教育(中高一貫教育を含む。)の在り方に関すること。
- (3) 県立高等学校及び学科の適正配置・改編整備に関すること。

(構成)

第3 検討会議は、次の表に掲げる者のうち岩手県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者(以下「構成員」という。)の出席によって開催する。

区 分	構成員数	摘 要
学識経験者	5人	
教育関係団体の役職員	6人	
市町村長及び市町村教育委員会教育長	4人	
産業関係団体等の役職員	6人	
高等学校と地域との連携・協働について知見を有する者	1人	

(代理出席)

第4 団体を代表する構成員は、事故その他のやむを得ない理由により検討会議に出席できないときは、あらかじめ教育長の承認を得て、当該団体に所属する者を代理人として出席させることができる。

(座長及び副座長)

第5 検討会議に座長及び副座長1人を置く。

- 2 座長及び副座長は、構成員の互選により選出する。
- 3 座長は会議の進行を行う。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6 検討会議は、教育長が招集する。

- 2 教育長は、必要があると認めるときは、検討会議に構成員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第7 検討会議の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校教育室において処理する。

(補則)

第8 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年3月31日から施行する。
- 2 この要綱は、第1の検討が終了した日限り、その効力を失う。

開 催 趣 旨

少子高齢化や社会経済のグローバル化、デジタルトランスフォーメーションの進展等の社会の変容に加え、世界的な感染症の流行や国際情勢の不安定化による影響等、将来の予測が困難な時代となっている。このような中、資源に乏しい我が国が将来にわたって持続的に発展していくためには、人こそが最大の資源であり、個性や能力を發揮し、主体的に社会の形成に参画する人材を社会全体で育てていくことが不可欠である。

未来の岩手をつくるのは、未来を生きる今の子どもたちであり、人口減少が進む一方で、ふるさと振興への期待が高まる中、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や、地域との協働による多様な人間関係の中で得られる学びにより、子どもたち一人ひとりの人格の形成と夢の実現を支え、豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手を育成していくことが、これからの岩手の未来を切り拓く礎となると考える。新しい時代を見据えながら、岩手の子どもたちに、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を総合的に兼ね備え、変容する社会に適応し、社会を創造するための「生きる力」を育むための教育を進める必要がある。

また、東日本大震災津波の発災から 12 年が経過し、復旧・復興に向けた取組は着実に進んでおり、被災した公立の学校施設や社会教育施設は既に復旧しているものの、児童生徒の心のサポートや震災の教訓の次世代への継承など、今後も重点的に取り組んでいかなければならない多くの教育課題もある。

このため、岩手県教育委員会では、「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画」等に基づき、児童生徒が、生きる力を身に付け、岩手の未来を切り拓いていけるよう、また、人生 100 年時代や Society5.0、超スマート社会を迎えるに当たり、一人ひとりの人生が豊かで活気ある地域社会の形成に教育分野から貢献できるよう、学校教育や社会教育・家庭教育の推進を図っているところである。

このような中、急速に進行する少子化への対応は、避けて通ることができない大きな課題となっている。本県における中学校卒業生数は、平成元年の 22,833 名を境に減少に転じ、令和 6 年度には 1 万人を割ることが推計される等、減少傾向に歯止めがかからない状況であり、将来的にも同様の傾向が続くことが見込まれている。このため、平成 27 年度には「新たな県立高等学校再編計画」を策定し、生徒にとってより良い教育環境の整備を目指した県立高等学校の再編整備に取り組んでいるほか、令和 3 年度には「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」を策定し、地域等の関係機関との連携・協働により、魅力ある学校づくりに取り組んでいるところである。

こうした状況や、現行の高校再編計画が令和 7 年度に終期を迎えること等を踏まえ、生徒数の減少と学校の小規模化に対応しながら、教育の質を確保し、県立高等学校の特色化・魅力化に向けて、本県における今後の高等学校教育の在り方や学びの環境がどうあるべきか等、以下のような観点に基づき、改めて検討する必要がある。

ると考える。

○ 検討に当たっての主な観点

(1) 岩手の高等学校教育の基本的な考え方について

- ア 高等学校には、義務教育を修了した生徒に対して、高等学校卒業後、直ちに社会に出ることを念頭に置いて教育を行う一方、高等教育機関への進学に向けた準備教育を行う役割が期待されていること。〔進路希望の実現〕
- イ 同時に、高等学校は、進学や就職といった生徒の進路にかかわらず、中学校等卒業後のほぼ全ての者に対して、社会で生きていくために必要となる資質・能力を共通して身に付けさせることのできる教育機関であること。〔社会人としての基盤形成〕
- ウ ア及びイを前提とし、岩手の高等学校教育の目指す姿はどうあれば良いか。

(2) 県立高等学校の配置の在り方について

- ア 岩手の高等学校教育の目指す姿を実現するために、県全体として戦略的な県立高等学校の配置はどうあれば良いか。
- イ 次の3つの観点から、各種類の学校（普通高校、専門高校、及び総合学科高校）、及び各学科（系列等）の役割や今後の方向性、並びに、中高一貫教育や普通科改革、及び単位制等による県立高等学校の配置の在り方や特色化はどうあれば良いか。
 - ① 生徒が進路希望を実現するために必要な教育を保障する観点
 - ② 変容する社会や産業ニーズに対応し、新しい時代に求められる資質・能力を育成する観点
 - ③ 義務教育段階や高等教育等との接続を図る観点
- ウ 教育DXや、地域との協働による高校魅力化の推進、多様な教育ニーズの高まり等、高等学校教育を取り巻く情勢の変化を踏まえた県立高等学校の配置はどうあれば良いか。

(3) 少子化への対応について

- ア 少子化により学校規模が縮小し、小規模な高校が増加する中で、教育の機会の保障や教育の質を保証しながら、地域や地域産業を支える人材を育成する環境や、生徒が互いに切磋琢磨できる学習環境をどのように整備すれば良いか。
- イ その中で、高校再編の基本的な方向性はどうあれば良いか。

(4) 新たな県立高等学校再編計画の結果の検証について

平成28年度から実施してきた現行の「新たな県立高等学校再編計画」の結果をどう評価するのか。

議題（１） 座長及び副座長の選任について

県立高等学校教育の在り方検討会議開催要綱《抜粋》

（座長及び副座長）

第5 検討会議に座長及び副座長 1 人を置く。

2 座長及び副座長は、構成員の互選により選出する。

3 座長は会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、その職務を代理する。

（メモ欄）

議題（２） 県立高等学校の現状等について

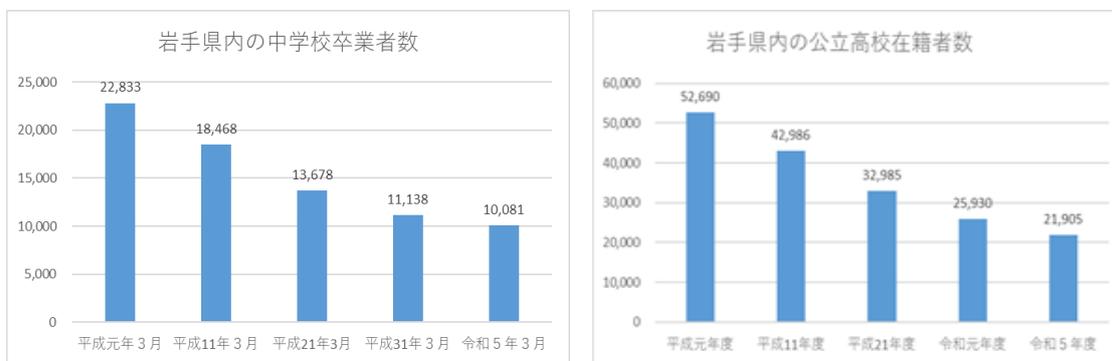
1 県立高等学校の現状

（注：以下の「速報値」は、令和5年5月時点における学校教育室調べの数値であり、今後修正する場合がある。）

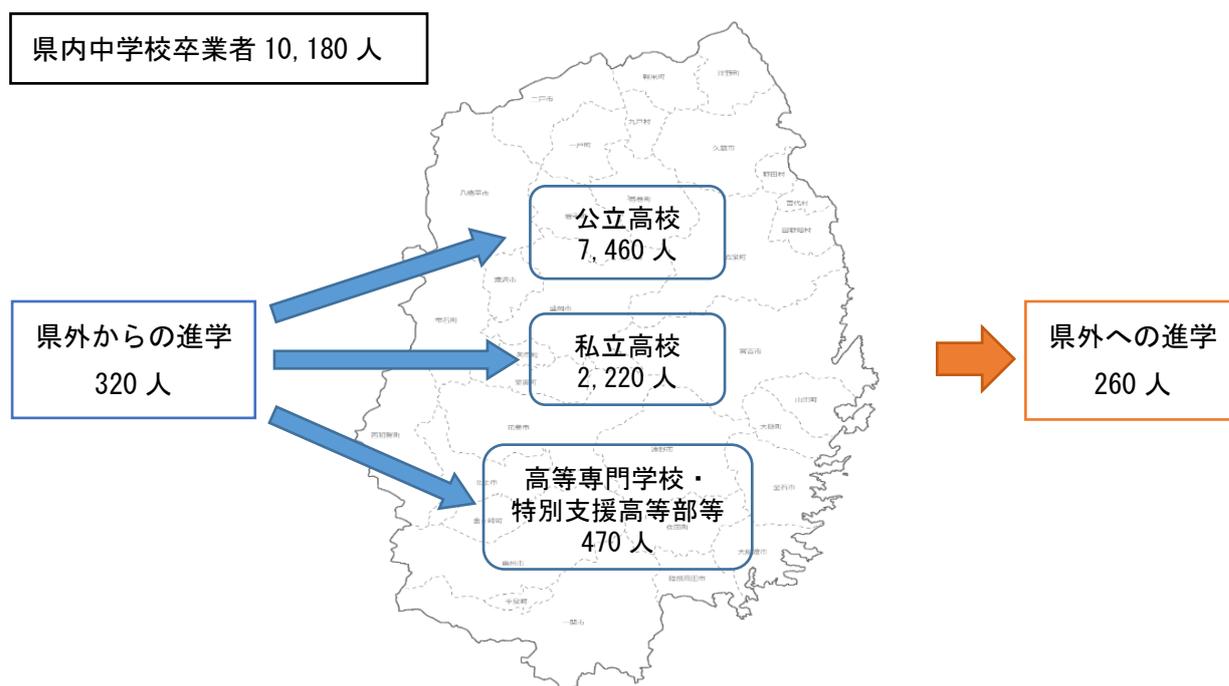
（１） 生徒数

本県における中学校卒業生数（義務教育学校含む。以下同じ。）は、平成元年3月の22,833人を境に減少に転じて以来、令和5年3月は10,081人（速報値）となっている。（別添資料P1参照）

このため、公立高校の在籍者数も、平成元年度の52,690人をピークに減少しており、令和5年5月1日現在の公立高校の在籍者数は21,905人（全日制課程21,573人、定時制課程332人；いずれも速報値）となっている。



なお、令和3～5年度の3カ年平均の県内中学校卒業生数（非進学者を含む。）、県内の公立高校、私立高校及び高等専門学校・特別支援高等部等への進学者数は下図の示すとおりとなっている。進学者のうち、320人が県外からの進学である。また、260人が県外へ進学している。（いずれも概数；速報値）



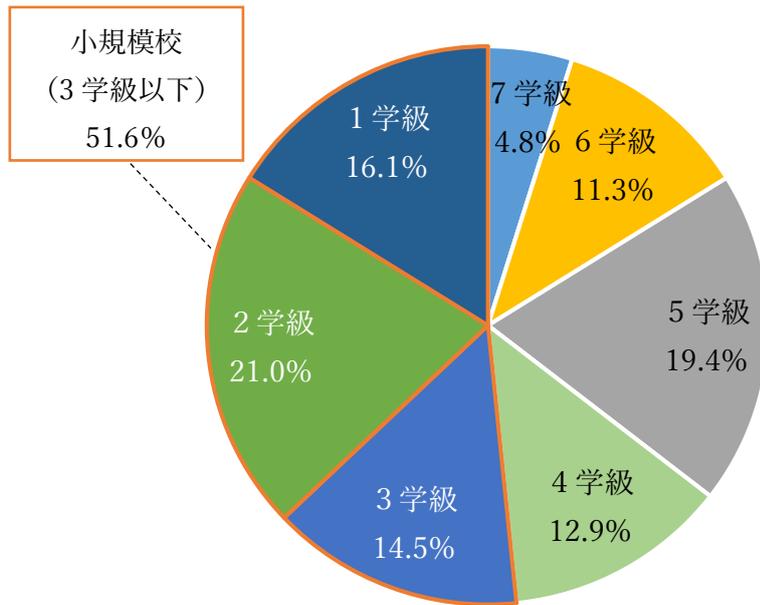
(2) 学校数及び学校規模

令和5年度現在、全日制課程の県立高校は、本校62校、分校0校の合計62校（H20年度比▲10校）が設置されており、1校あたりの平均募集学級数は3.52（同▲0.60）である。

また、岩手県の広大な県土面積や通学の利便性など本県の特殊性から、募集学級数が3学級以下の学校は51.6%となっており、全国（R4年度）の23.2%を大きく上回っている。（別添資料P3参照）

■ 全日制県立高校における学校規模別の設置状況（令和5年度）

※学校規模は、1学年の募集学級数を示す。



また、県内全日制公立高校の令和5年度入学生における定員充足率は80%となっており、県内全域で欠員が生じている状況である。（別添資料P4参照）

■ 全日制公立高校における定員充足率等の推移

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
定員	10,475	10,395	10,075	9,715	9,235	9,235	9,195	8,995
入学者数	9,266	8,945	8,739	8,316	7,762	7,457	7,501	7,179
差	▲1,209	▲1,450	▲1,336	▲1,399	▲1,473	▲1,778	▲1,694	▲1,816
充足率	88%	86%	87%	86%	84%	81%	82%	80%

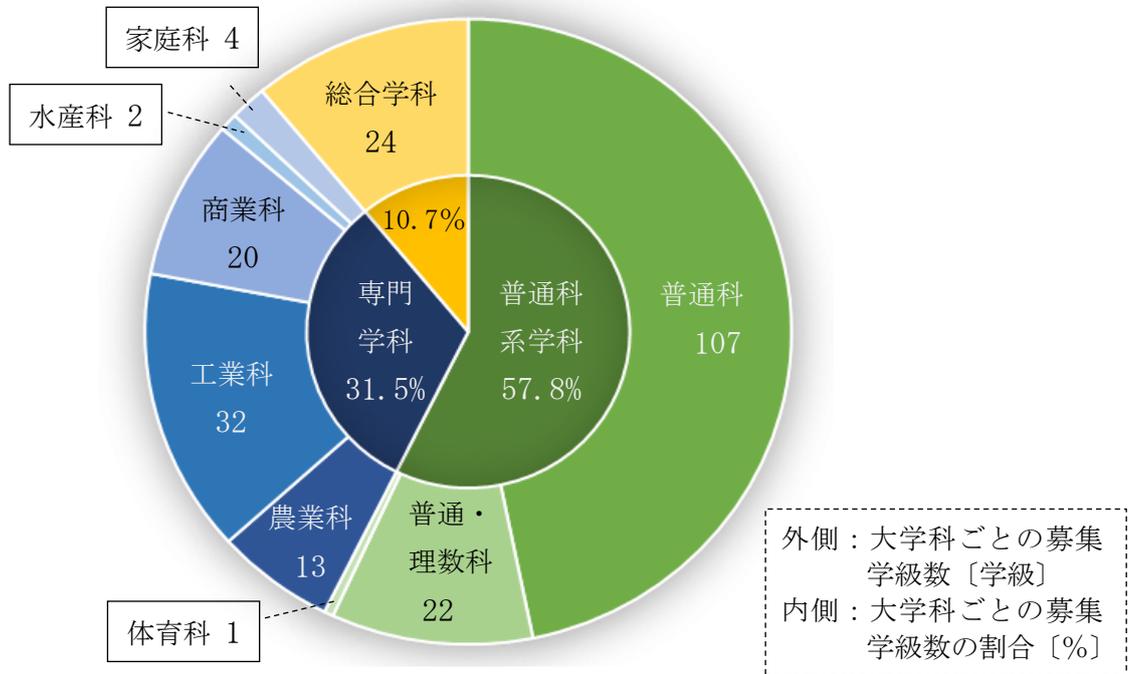
(3) 学科の構成

令和5年度における県内全日制公立高校225学級の大学科別募集学級数における、普通科系学科、専門学科、総合学科の割合（内側）と学級数（外側）は、右頁の円グラフに示すとおりとなっている。（別添資料P5～6参照）

平成28年に策定した「新たな県立高等学校再編計画」や、令和3年に策定した「新

たな県立高等学校再編計画後期計画」に基づきながら、中学生、保護者及び地域のニーズに応じるとともに、地域社会を担う人材を育成するため、各地区における適正な設置・充実に努めてきたところである。

■ 令和5年度県内全日制公立高校における大学科別募集学級数の状況



(4) 通学区域 (学区)

県立高校の学区は、高校教育の普及とその機会均等を図るため、昭和32年に制定した「岩手県立高等学校の通学区域に関する規則」によって定めており、現在は、全県を8つの学区に分割している。(別添資料P7参照)

また、本県では、専門学科及び総合学科は全県一区としており、学区制限を受けるのは、一般入学者選抜の普通科を履修しようとする生徒についてである。なお、普通科においても、学区外からの生徒受入れは1学年定員の10%の範囲内で可能としている。

☆ 全日制の普通科のうち、盛岡南(体育コース)、不来方(芸術・外国語・体育)、花巻南(スポーツ健康科学・国際科学)以外は、学区の制限がある。

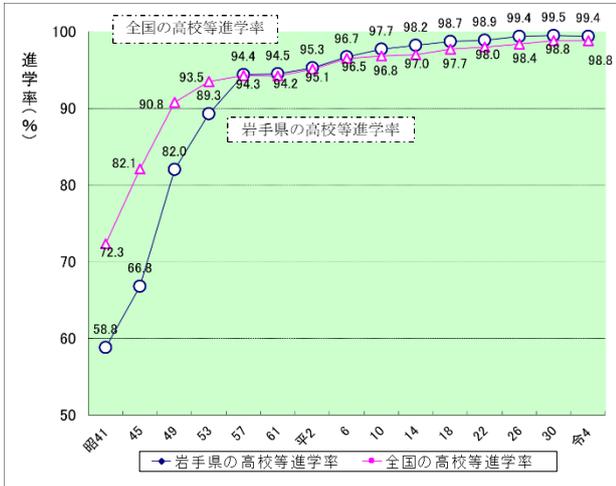
☆ 専門学科(農業、工業、商業、水産、家庭、理数、体育)及び総合学科は、学区の制限はない。

(5) 高校等進学率及び大学等進学率

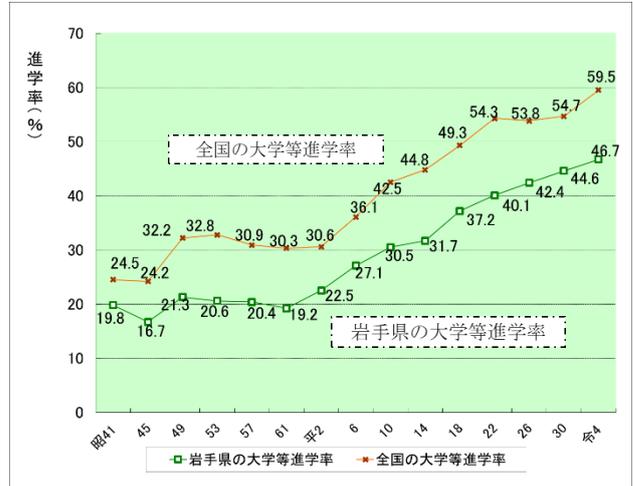
本県の高校等進学率は、昭和61年に全国平均を上回って以降、高い進学率を保っており、令和4年3月に県内中学校を卒業した生徒の高校等進学率(通信制課程含む)は99.4%に達している。なお、通信制課程を除いた進学率は96.8%となっている。(別添資料P8参照)

一方、本県の大学等進学率は上昇しているものの、全国の大学等進学率の上昇に追いつかない状況となっている。令和4年3月に県内高校（全日制・定時制）を卒業した生徒の大学等進学率は46.7%で、全国では沖縄県（44.6%）、山口県（45.6%）、鹿児島県（46.5%）に次いで低い進学率となっている。

■ 高校等進学率



■ 大学等進学率

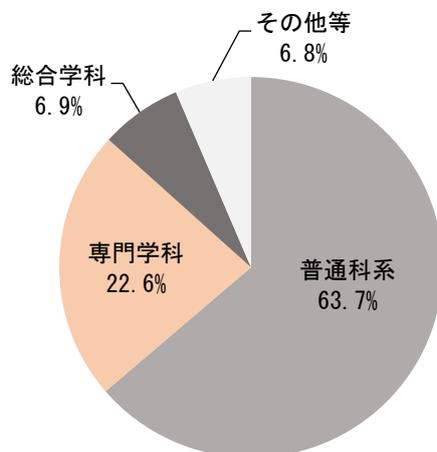


(6) 中学生の進路希望状況

中学生の進路希望については、平成30年7月に、県内すべての中学3年生を対象としたアンケート調査を実施しており、進学を希望する学科については、下図のような結果であった。(別添資料P9参照)

一方、県内全日制公立高校における学科別募集学級数の割合は、前述のとおり、令和5年度においては、普通科系学科57.8%、専門学科31.5%、総合学科10.7%となっており、概ね中学生の希望状況に合った募集状況となっている。

■ 中学生の学科別進路希望 (H30)



内訳	割合
どの科でも良い	1.2%
未定	4.2%
その他	1.4%

内訳	割合
農業科	2.9%
工業科	10.4%
商業科	6.3%
水産科	0.3%
家庭科	2.7%

(7) 高等学校再編計画の推移

県立高校の再編については、生徒減少が始まった平成元年度以降、平成11年度までは学級数の調整や、生徒の志望動向の変化に配慮した学科改編等を中心に実施してきた。

平成12年には、生徒が急減することを見据え、「県立高等学校新整備計画」を策定し、計画に基づく学校統合や学級減等による学級数調整に取り組んだ。

その後、次期計画の策定に向けた取組を進めていたが、東日本大震災津波の発災により再編計画の策定を一時中断した。

震災からの復旧が進み、5年が経過した平成28年には、第2期計画となる「新たな県立高等学校再編計画」を策定し、教育の機会の保障と質の保証を柱とした高校再編の取組を開始した。

令和3年には、地方創生の機運が高まる中、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」を基本的な考えとして掲げた、現行計画である「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（計画期間：令和3～7年度）を策定した。後期計画では、再編を行いながらも専門高等学校の多様性を維持し、地元産業との連携等により、高等学校を地域の人材育成拠点とすることを目指している。（本資料P20参照）

■ 岩手県における高校再編の推移

年度	再編計画	主な取組	中学校 卒業業者数	全日制設置学校数 (うち分校数)	全日制 募集学級数	全日制 募集定員	
H12 H21	第1期	前期 (H12- H16)	学校統合や学級減等 による学級数調整 (小規模専門高校の総合 学科高校への再編など)	17,874人 ↓▲2,406 15,468人	83校(5校) ↓▲5 78校(4校)	359学級 ↓▲44 315学級	14,360人 ↓▲1,760 12,600人
		後期 (H17- H21)	学校統合や学級減等 による学級数調整 (小規模校の統合、分校の 廃止など)	14,857人 ↓▲1,179 13,678人	77校(4校) ↓▲12 65校(2校)	301学級 ↓▲28 273学級	12,040人 ↓▲1,120 10,920人
H23	東日本大震災津波の発災により再編計画を中断						
H28 R7	第2期	前期 (H28- R2)	学級減を主とした学 級数調整により地方 の学校を維持	12,081人 ↓▲1,404 10,677人	63校(0校) ↓▲1 62校(0校)	255学級 ↓▲31 224学級	10,200人 ↓▲1,240 8,960人
		後期※ (R3- R7)	小規模化する専門高校 の統合等により、一定 規模を確保した学びの 環境を整備	10,092人 ↓▲351 9,741人	62校(0校) ↓▲3 59校(0校)	224学級 ↓▲10 214学級	8,960人 ↓▲400 8,560人

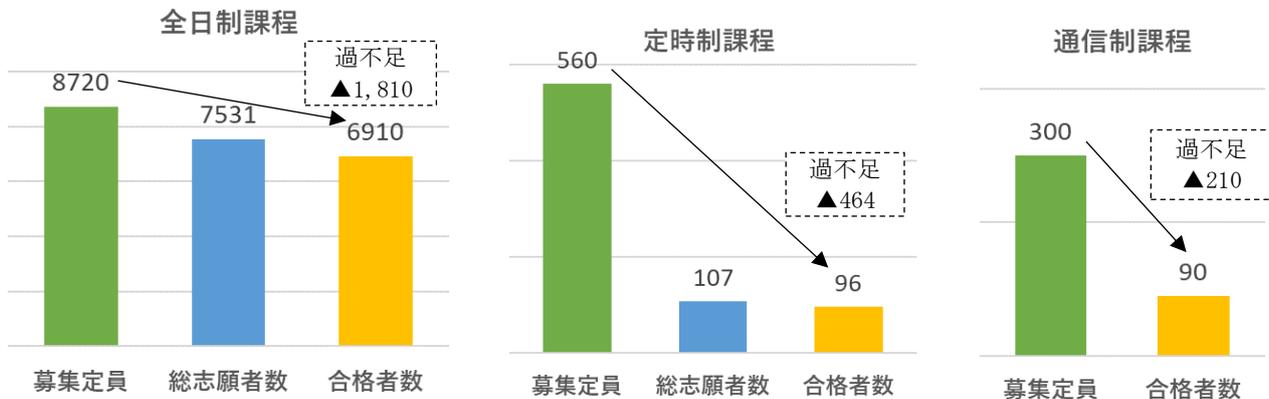
※第2期再編計画後期（R3-R7）欄の数値において、R3は実績値、R7は推計値及び見込み値である。

なお、本県の高校再編では、県内を9つの「ブロック」に分け、基本的にブロックごとに統合や学級数調整等を検討し、実施している。

ブロック割は、学区を基本としているが、「気仙・釜石学区」を「気仙ブロック」と「釜石・遠野ブロック」に分割している。（別添資料P10参照）

(8) 県立高等学校の募集定員・合格者等の状況

令和5年度の県立高校の募集定員・合格者数等の状況は、全日制課程では、募集定員8,720人に対し、総志願者数7,531人、うち合格者数6,910人、過不足数▲1,810人となっている。定時制課程では、募集定員560人に対し、総志願者数107人、うち合格者数96人、過不足数▲464人、通信制課程では、募集定員300人に対し、合格者数90人、過不足数▲210人となっている。(別添資料P12参照)



(9) 高校の特色化・魅力化

県教育委員会では、令和3年10月に「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」を策定し、各高等学校の存在意義・社会的役割の明確化(スクール・ミッションの再定義)を行った。これに基づき、すべての県立高校は、令和4年度中に、地域等関係機関との協働によりスクール・ポリシーを定めている。(別添資料P13参照)

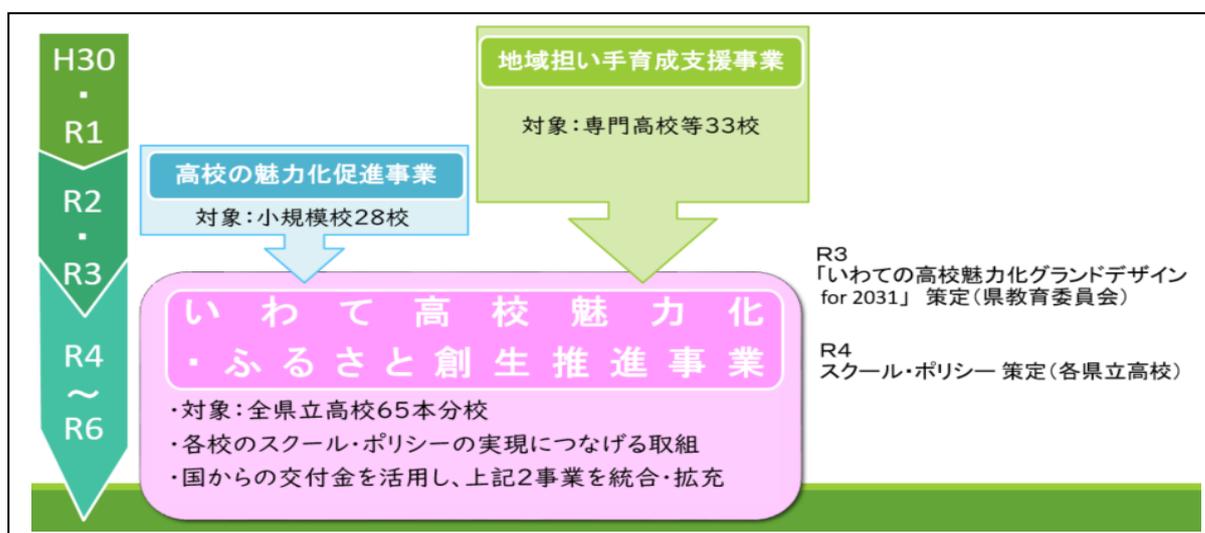


スクール・ポリシーに基づいた特色・魅力ある学校づくりの取組は、次頁の図に示す経緯を経て、令和4年度から国からの交付金を活用した「いわて高校魅力化・ふるさと創生推進事業」により実施している。

この事業により、生徒の資質・能力の育成と地域等のコミュニティの持続的な発展を図る「高校魅力化」の取組を深化させるとともに、全県立高校に横展開するこ

とによって、県内全域における中長期的な「高校と地域等との共創による地域を担う人づくり」を推進している。

■ 魅力ある学校づくりに向けた取組の経緯



■ いわての高校魅力化における2つの視点

生徒にとっての魅力化	多様な教育資源・フィールドを活用した魅力ある教育活動をとおして、生徒が資質・能力を高めながら、豊かに成長していくこと。
コミュニティにとっての魅力化	生徒がコミュニティに参画しながら学び、大人が生徒の学びの活動に参画する。 学校とコミュニティの連携・協働をとおして、コミュニティが豊かに成長していくこと。

また、ウェブ上の広報媒体である「note」を活用することにより、県内外の中学生や保護者をはじめとする多くの人々に対し、各校の特色・魅力ある教育活動に関する情報発信を行っている。

2 生徒減少の状況

前述のとおり、本県における中学校卒業生数は、平成元年3月の22,833人を境として減少に転じて以来、令和5年3月の10,081人まで年平均約375人のペースで減少しており、今後も減少傾向が続くことが見込まれている。

今年の小学1年生が中学校卒業生となる令和14年3月には8,265人と、令和5年に比較して1,800人余りの減少(約45学級分の減少に相当)となるが見込まれている。(別添資料P1、2参照)

なお、令和14年以降についても生徒の減少は続く見込みであり、令和19年3月には6,260人程度まで減少するものと見込まれており、令和5年と比較して約3,800人の減少(約95学級分の減少に相当)に達するものと見込まれる。

議題（３） 現行計画の推進状況について

I 新たな県立高等学校再編計画の概要

1 再編計画策定の経緯

県教育委員会においては、高校教育の現状と課題を踏まえ、魅力ある学校づくりに向けて適切な教育環境の整備の推進を図るため、「新たな県立高等学校再編計画」及び「新たな県立高等学校再編計画後期計画」（以下「後期計画」という。）を策定した。計画策定の経緯は、以下のとおりである。

平成22年 3月	「今後の高等学校教育の基本的方向」策定
平成26年 5月	「県立高等学校教育の在り方検討委員会」設置
平成26年 12月	同委員会から「今後の県立高等学校の在り方について」報告書提出
平成27年 4月	「今後の高等学校教育の基本的方向」改訂
平成28年 3月	「新たな県立高等学校再編計画」策定
令和3年 5月	「新たな県立高等学校再編計画後期計画」策定

2 再編計画の期間

本計画は、平成28年度から令和7年度までの10年間の計画である。

このうち、平成28年度から令和2年度までの5年間の前期、令和3年度から令和7年度までの5年間の後期として、統合、学級数調整、学科改編等について、それぞれ具体的な県立高校の再編を計画するものである。

3 再編計画の基本的な考え方

(1) 特色と魅力を持った学校の整備

生徒の学習ニーズ、興味・関心等に適切に対応し、進路希望の実現を図るため、生徒が意欲を持って主体的に学ぶことができる特色と魅力を持った学校づくりを推進することが重要であるとしている。

(2) 教育機会と教育環境の確保

生徒数の減少が続く状況の中、広大な県土と多くの中山間地域を抱える本県において、教育機会の確保は大きな課題となっている。一方で、集団生活を通じて社会性や協調性を育むためには、一定規模の人数が必要であるとしている。

(3) 様々な課題を抱えた生徒に対応した学校の充実

特別な支援を必要とするなど、様々な課題を抱えた生徒への適切な指導や支援体制の充実が必要であるとしている。

(4) 地域や産業と高校教育の連携

地域の産業構造や人材のニーズを踏まえ、地域における就職の実態等を見据えた学科や教育課程の編成を行い、各地域において産学官が連携し、広域的に組織している人材育成の取組と連携しながら、地域や地域産業を担い、発展に貢献できる人材の育成を図ることとしている。

4 学校・学級の規模

(1) 学校規模に対する考え方

平成 28 年に策定した「新たな県立高等学校再編計画」においては、生徒の個性や進路希望の多様化への対応、多様な教育活動の展開、及び集団活動による社会性の育成等の観点から、学校規模に対する考え方を示した。

その後、「新たな県立高等学校再編計画後期計画」の策定に向けた地域との意見交換等において、地域の小規模校の存続を求める意見が多かったことや、地方創生に果たす高校の役割等を考慮し、後期計画においては、現状の学校規模をできる限り確保する等、柔軟に対応することとした。

(2) 周辺の高校への通学が極端に困難な学校の取扱い

近隣に他の高校がなく、他地域への通学が極端に困難な場合、地域における学びの機会を保障するため、特例として1学年1学級を最低規模とする学校（以下「特例校」という。）を配置することとし、特例校として葛巻高校、西和賀高校、岩泉高校の3校を指定している。

なお、1学年1学級の学校（以下「1学級校」という。）については、入学者数が2年連続で20人以下となった場合には、原則として、翌年度から募集停止とし、統合することとしている。

(3) 1学級の規模

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」の規定に基づき、1学級の定員は40人を標準としている。

5 通学等の支援

本計画による県立高校の統合により、公共交通機関による通学の費用が大幅に増加する場合や、通学が困難になる場合には、他の地域との公平性も考慮した上で、通学支援策を導入していくこととしている。

なお、具体的な支援策については、各地域での状況等が異なることから、地域の意見を伺いながら検討・実施することとしている。

Ⅱ 新たな県立高等学校再編計画の実施状況等について

1 現行計画の推進状況

学級編制については、原則として再編計画に基づき実施することとし、県内各ブロック内の中学校卒業予定者数や、各学校の定員充足状況等に大きな変化があった場合には、実施時期等の変更を検討することとしている。

また、入学志願者で1学級定員（40人）以上の欠員を生じた場合には「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」に基づき、学級減を検討する場合があることとしている。

このような考え方にに基づき、現行計画期間の学級編制を検討し、全県で4地区の学校統合（うち3地区はR6年度以降）、43学級（うち4学級はR6年度以降）の学級数調整等を行った。

(1) 平成28年度の実施

[平成29年度の学級編制]

学校名	平成28年度 学科・学級数	再編内容	平成29年度 学科・学級数
大槌	普通3	1学級減	普通2
伊保内	普通2	1学級減	普通1

(2) 平成29年度の実施

[平成30年度の学級編制]

学校名	平成29年度 学科・学級数	再編内容	平成30年度 学科・学級数
雫石	普通2	1学級減	普通1
西和賀	普通2	1学級減 コース見直し	普通1
水沢農業	農業3	1学級減 学科改編	農業2
一関第二	総合6	1学級減 系列見直し	総合5
大船渡	普通5	1学級減	普通4
釜石商工	工業3 商業2	2学級減 学科改編	工業2 商業1
種市	普通2 工業1	1学級減	普通1 工業1

[再編計画による学校再編]

杜陵高校通信制課程宮古分室を宮古高校通信制課程に再編

[再編計画の学級減を延期した学校]

葛巻高校

(3) 平成 30 年度 of 取組

[令和元年度の学級編制]

学校名	平成 30 年度 学科・学級数	再編内容	令和元年度 学科・学級数
盛岡第四	普通 7	1 学級減	普通 6
平 館	普通 2 家庭 1	1 学級減 コース見直し	普通 1 家庭 1
岩 谷 堂	総合 5	1 学級減	総合 4
大 東	普通 3 商業 1	1 学級減	普通 2 商業 1
大船渡東	農業 1 工業 2 商業 1 家庭 1	1 学級減 学科改編	農業 1 工業 1 商業 1 家庭 1
宮古水産	水産 2 家庭 1	1 学級減 学科改編	水産 1 家庭 1
久 慈	普通 5	1 学級減	普通 4
大 野	普通 2	1 学級減	普通 1
福 岡	普通 5	1 学級減	普通 4

[令和 2 年度の再編計画の統合を実施することとした地区]

宮古地区 (宮古工業高校と宮古商業高校)

[令和 2 年度の再編計画の統合を延期することとした地区]

遠野地区 (遠野高校と遠野緑峰高校)

久慈地区 (久慈東高校と久慈工業高校)

[再編計画の学級減を延期した学校]

葛巻高校、花巻南高校、水沢工業高校、前沢高校、山田高校

[再編計画の統合等を延期した学校]

盛岡工業高校 (定時制)

(4) 令和元年度の取組

[令和2年度の学級編制]

学校名	令和元年度 学科・学級数	再編内容	令和2年度 学科・学級数
盛岡北	普通6	1学級減	普通5
紫波総合	総合5	1学級減	総合4
北上翔南	総合6	1学級減	総合5
金ヶ崎	普通3	1学級減	普通2
一関第一	普通5 理数1	1学級減	普通4 理数1
一関工業	工業4	1学級減 学科改編	工業3
高田	普通4 水産1	1学級減	普通3 水産1
釜石	普通4 理数1	1学級減	普通3 理数1
山田	普通2	1学級減	普通1
宮古	普通6	1学級減	普通5
宮古工業	工業3	統合（校舎制） 2学級減 学科改編	[宮古商工高校] 工業2 商業3
宮古商業	商業4		
<p>[再編計画の学級減を延期した学校]</p> <p>盛岡第三高校、不来方高校、盛岡工業高校、葛巻高校、花巻南高校、 花北青雲高校、水沢工業高校、前沢高校、一戸高校</p> <p>[再編計画の統合等を延期した学校]</p> <p>盛岡工業高校（定時制）</p>			

(5) 令和2年度の取組

〔令和2年度の再編計画の統合を延期することとした地区〕 久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）
〔令和2年度の再編計画の統合を計画から除外した地区〕 遠野地区（遠野高校と遠野緑峰高校）
〔再編計画の学級減を計画から除外した学校〕 盛岡第三高校、不来方高校、盛岡工業高校、葛巻高校、花巻南高校、 花北青雲高校、水沢工業高校、前沢高校、一戸高校
〔再編計画の統合等を計画から除外した学校〕 盛岡工業高校（定時制）

(6) 令和3年度の取組

[令和4年度の学級編制]

学校名	令和3年度 学科・学級数	再編内容	令和4年度 学科・学級数
岩谷堂	総合4	1学級減	総合3

〔令和3年度の再編計画の統合を延期することとした地区〕 久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

(7) 令和4年度 of 取組

[令和5年度の学級編制]

学校名	令和4年度 学科・学級数	再編内容	令和5年度 学科・学級数
盛岡南	普通5 体育1	1学級減	普通4 体育1
不来方	普通7	1学級減	普通6
沼宮内	普通2	1学級減	普通1
紫波総合	総合4	1学級減	総合3
遠野	普通4	1学級減	普通3

〔令和7年度の再編計画の統合を実施することとした地区〕 久慈地区（久慈東高校と久慈工業高校）

(8) 令和5年度の取組（予定）

[令和6年度の学級編制]

学校名	令和5年度 学科・学級数	再編内容	令和6年度 学科・学級数
福岡工業	工業2	統合（校舎制） 学科改編	[北桜高校] 工業2 総合3
一戸	総合3		

(9) 令和6年度の取組（予定）

[令和7年度の学級編制]

学校名	令和6年度 学科・学級数	再編内容	令和7年度 学科・学級数
盛岡南	普通4 体育1	統合 3学級減 学科改編	[南昌みらい高校] 普通8
不来方	普通6		
久慈東	総合5	統合（校舎制） 1学級減 学科改編	[久慈地区新設高校（仮称）] 工業1 総合5
久慈工業	工業2		

2 現行計画の評価

(1) 計画の推進

現行計画については、計画の着実な実施が重要と考える一方で、地方創生に向けた地域の取組状況、中学校卒業予定者数や各学校の入学者の状況等を十分に把握し、地域の実情を踏まえた判断も必要であると考えます。

再編計画の推進に当たっては、県内各地域の地方創生に向けた取組の充実、工業等の人材確保に向けた産業界のニーズの高まり、入学志願者の増加など、計画策定後の状況の変化を勘案し、再編の実施時期を延期した学校があるものの、より良い教育環境の整備に向けて、おおむね計画の考え方に沿った再編を進めたところである。

[現行計画の推進状況]

年度	中学校 卒業生数	県立高校（全日制）の編制			
		学校数	募集学級数	学科種別	
平成 28 年度	12,081 人	63 校	255 学級	普通科※	148 学級
				専門学科	77 学級
				総合学科	30 学級
令和 2 年度	10,677 人	62 校	224 学級	普通科※	129 学級
				専門学科	69 学級
				総合学科	26 学級
令和 5 年度	10,081 人	62 校	218 学級	普通科※	125 学級
				専門学科	69 学級
				総合学科	24 学級
令和 7 年度	9,741 人	59 校	214 学級	普通科※	122 学級
				専門学科	68 学級
				総合学科	24 学級

※ 普通科には、理数科及び体育科を含む。

(2) 現行計画実施後の状況

現行計画期間の最終年度となる令和 7 年度には、1 学年 4 学級以上の学校は 30 校（H28 年度比▲ 6 校）であり、1 学級校は 10 校（同+ 6 校）となる見込みである。

今後も中学校卒業生数の減少が見込まれるため、県内全域における学校規模の縮小に伴う教育の質の確保が難しくなることが懸念されることから、生徒一人ひとりの多様な学びの実現に応じていくための教育環境の整備について、全県的な視野で検討を進めることが必要であるものとする。

議題（４） 中学生の進路希望等に関するアンケート

1 調査の名称

「中学生の進路希望等に関するアンケート」

2 調査の目的

県内の国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒及び保護者を対象とし、中学校及び義務教育学校卒業後の進路等に対する希望、考え方について、全県的な規模で把握するために実施し、次期県立高等学校再編計画策定等の検討の参考とすることを目的とする。

3 調査の内容

卒業後の進路希望、高校進学予定者の希望学科、高校への通学等

（詳細は、別添「中学生の進路希望等に関するアンケート」用紙を参照。）

4 調査の対象

（１）対象となる学校

県内全ての国公立中学校及び義務教育学校

（２）対象者

県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年に在学する生徒及び生徒の保護者

5 アンケートの実施時期

7月下旬までの期間を予定（6月下旬発送予定）

6-1 調査の方法（生徒）

（１）生徒は学校で実施する。

（２）生徒用の調査への回答は、アンケート用紙（マークシート）への記入又はアンケートシステム（Microsoft Forms）への入力の方法で回答することが可能。

学校長がどちらか1つの回答方法を選択し、アンケートを実施する。

6-2 調査の方法（保護者）

保護者用のアンケート用紙（マークシート）、アンケート別紙資料は生徒を通じて配付、回収する。

7 アンケート用紙（マークシート）の提出

（１）必要事項を記入した実施状況確認票、生徒及び保護者が記入したアンケート用紙（マークシート）全員分を、返信用封筒で岩手県教育委員会まで直接提出する。提出の際に、回答結果集計等は不要であること。

（２）8月中旬までの提出をお願いする予定。



悪い 良い

【生徒用】中学生の進路希望等に関するアンケート

進路希望等に関する以下の項目について、あなたの考えをお聞かせください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク を塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク : 正しいぬりつぶし : 不十分なぬりつぶし

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) Q あなたの通っている中学校または義務教育学校がある市町村を教えてください。(1つにマーク)

- | | | | | | |
|----------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| <input type="radio"/> 盛岡市 | <input type="radio"/> 滝沢市 | <input type="radio"/> 八幡平市 | <input type="radio"/> 雫石町 | <input type="radio"/> 葛巻町 | <input type="radio"/> 岩手町 |
| <input type="radio"/> 紫波町 | <input type="radio"/> 矢巾町 | <input type="radio"/> 花巻市 | <input type="radio"/> 北上市 | <input type="radio"/> 西和賀町 | <input type="radio"/> 奥州市 |
| <input type="radio"/> 金ケ崎町 | <input type="radio"/> 一関市 | <input type="radio"/> 平泉町 | <input type="radio"/> 大船渡市 | <input type="radio"/> 陸前高田市 | <input type="radio"/> 住田町 |
| <input type="radio"/> 釜石市 | <input type="radio"/> 遠野市 | <input type="radio"/> 大槌町 | <input type="radio"/> 宮古市 | <input type="radio"/> 山田町 | <input type="radio"/> 岩泉町 |
| <input type="radio"/> 田野畑村 | <input type="radio"/> 久慈市 | <input type="radio"/> 普代村 | <input type="radio"/> 洋野町 | <input type="radio"/> 野田村 | <input type="radio"/> 二戸市 |
| <input type="radio"/> 一戸町 | <input type="radio"/> 軽米町 | <input type="radio"/> 九戸村 | | | |

(2) Q 高校選択で重視することは何ですか。(3つ以内でマーク)

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 学習内容 | <input type="radio"/> 学校行事 | <input type="radio"/> 進路(進学・就職)実績 | <input type="radio"/> 生徒の様子 |
| <input type="radio"/> 部活動 | <input type="radio"/> 施設設備 | <input type="radio"/> 教員の指導力 | <input type="radio"/> 就学に関する費用 |
| <input type="radio"/> 通学の便、通学の時間 | <input type="radio"/> 制服 | <input type="radio"/> 校則 | <input type="radio"/> 歴史と伝統 |
| <input type="radio"/> 合格の可能性 | <input type="radio"/> 友達と一緒に | <input type="radio"/> 中学校の先生の勧め | <input type="radio"/> 塾の勧め |
| <input type="radio"/> 家族の勧め | <input type="radio"/> 先輩の勧め | <input type="radio"/> 家族が卒業生あるいは在校生 | <input type="radio"/> 特になし |
| <input type="radio"/> その他 | | | |

(3) Q 高校の学習で希望すること、重視すべきと思うことは何ですか。(1つにマーク)

- | | |
|---|---|
| <input type="radio"/> 就職に役立つ知識や技術に関する学び | <input type="radio"/> 大学受験に必要な学び |
| <input type="radio"/> 基礎学力の向上につながる学び | <input type="radio"/> 地域づくりなど地域の活性化につながる学び |
| <input type="radio"/> 世界で活躍できる人材育成につながる学び | <input type="radio"/> パソコンやタブレットなど情報機器を使用した学び |
| <input type="radio"/> 実験や実習活動など実践的な学び | <input type="radio"/> 海外研修を取り入れた学び |
| <input type="radio"/> 企業研修を取り入れた学び | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> わからない | |

(4) Q 卒業後の進路をどのように考えていますか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(1)を参照

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 全日制の公立高校 | <input type="radio"/> 全日制の私立高校 | <input type="radio"/> 高等専門学校(高専) |
| <input type="radio"/> 定時制の高校 | <input type="radio"/> 通信制の高校 | <input type="radio"/> 就職(家業を含む) |
| <input type="radio"/> その他(専門学校などを含む) | <input type="radio"/> まだわからない | |

★マークのしかた



- (5) Q 進学先として(4)で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。(1つにマーク)
- 学びたい学科があるから 部活動が盛んだから(希望する部があるから) 進学・就職に有利だと思うから
- 地元の学校だから 働きながら学べるから 家族・親・先生がすすめてくれるから
- 雰囲気やイメージがよいから その他
- (6) Q 進学先としてどの学科を希望しますか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(2)を参照
- 普通科 理数科 外国語に関する学系
- 体育に関する学科・学系 芸術に関する学系 農業に関する学科
- 工業に関する学科 商業に関する学科 水産に関する学科
- 家庭に関する学科 総合学科 どの学科でもよい
- その他 わからない
- (7) <注意> 次の質問は、(6)の質問で「普通科」または「理数科」と答えた方で、県立高校へ進学を希望している方のみ回答してください。(盛岡市立は除く)
- Q 進学したい学校にあてはまるのはどれですか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(3)、(4)を参照
- 学区内にある 学区外にある その他(県外の公立、県内まだ決まっていない外の私立高校)
- (8) <注意> 次の質問は、(6)の質問で「農業に関する学科」、「工業に関する学科」、「商業に関する学科」、「水産に関する学科」、「家庭に関する学科」または「総合学科」と答えた方のみ回答してください。
- Q 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つにマーク)
- 専門分野を学びたい 専門分野以外も学びたい 入学後に専門分野を決めてよくわからないから学びたい
- (9) Q 高校での部活動について、あなたの考えにあてはまるのはどれですか。(1つにマーク)
- ①入部したい部を決めている ②入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい
- ①、②のどちらでもない わからない
- (10) Q 県立高校普通科の学区制について、どのように思いますか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(3)を参照
- 現在の8学区のままがよい 今の学区を拡げるのがよい
- 学区をなくし、どの地域からも入学できるようにするのがよい わからない
- (11) Q 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。(1つにマーク)
- 主に徒歩、自転車で通学可能な範囲まで 主にバス、列車で通学可能な範囲まで
- 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで 自宅から通学できない範囲でもよい
- その他 わからない
- (12) Q 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えていますか。(1つにマーク)
- 30分以内まで 1時間以内まで 1時間30分以内まで
- 2時間以内まで その他 わからない

★マークのしかた



(13) Q 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模（学級数）の高校がよいと思いますか。（1つにマーク）

⇒ 別紙資料(4)を参照

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> 各学年、1学級（40人）規模の高校 | <input type="radio"/> 各学年、2～3学級（80～120人）規模の高校 |
| <input type="radio"/> 各学年、4～6学級（160～240人）規模の高校 | <input type="radio"/> 各学年、7学級以上（280人以上）の規模の高校 |
| <input type="radio"/> その他 | <input type="radio"/> よくわからない |

(14) Q 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。（1つにマーク）

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> 大学・短大へ進学したい | <input type="radio"/> 専門学校（専修学校、各種学校）へ進学したい |
| <input type="radio"/> 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である | <input type="radio"/> 岩手県内で就職したい |
| <input type="radio"/> 岩手県以外で就職したい | <input type="radio"/> 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である |
| <input type="radio"/> まだわからない | |

(15) Q 将来どこで働いていると思いますか。（1つにマーク）

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 今住んでいる市町村で働いている | <input type="radio"/> 岩手県内（今住んでいる市町村以外）で働いている |
| <input type="radio"/> 岩手県外で働いている | <input type="radio"/> まだわからない |

中学生の進路希望等に関するアンケート別紙資料

(1) 全日制・定時制・通信制について

全日制

- ・ 小中学校のように昼間に授業を行う、高校の中では最も多いタイプの学校です。
- ・ 3年間のカリキュラムで学びます

定時制

- ・ 午前や昼間もありますが、多くは夜間に授業を行います。
- ・ 4年間のカリキュラムですが、授業時間帯を長くして、科目を多く設定し、3年で卒業可能な学校もあります。

通信制

- ・ 通信の方法により教育を行い、試験で単位を取得します。
- ・ 自宅学習とレポート提出が主体で、定期的なスクーリング(面接指導)があります。

(2) 高校の学科について

普通系学科

普通科

国語・数学・英語など普通科目を主に学習します。
専門の「コース」を設け、専門科目を学習できる学校もあります。

普通科系専門学科・学系

普通科目を基本としながら専門科目に重点を置いて学習します

<p>〈理数〉 普通科よりも理科・数学を重点的に学習します。</p>	<p>〈外国語〉 英語の他、フランス語や中国語などから選択して学習します。</p>	<p>〈体育〉 体育に関する専門理論や専門実技を学習します。</p>	<p>〈芸術〉 音楽・美術・工芸に関する専門科目を学習します。</p>
--	---	--	---

総合学科

将来の進路について考え、普通科目と専門科目にわたる幅広い科目を学習できる学校です。
2年生から、複数の学びの分野(総合学科高校では「系列」と呼びます)のうち、自分が将来希望する進路や資格取得にあった系列を選択します。また、学習したい普通科目や専門科目を自分で選択して、総合的に学習することができる単位制高校です。

系列



専門学科

農業

農業に関する技術や知識を学習します。農場などでの実習が数多く行われています。主に作物や野菜、果樹、草花の生産技術を学ぶ学科、家畜の飼育管理を学ぶ学科、農畜産物を利用した食品製造や加工を学ぶ学科、林業、農業に関する土木、造園技術を学ぶ学科などに分けられます。

工業

工業に関する専門的な知識や技術を学習します。主に機械、電気電子、化学、材料など、ものづくりに関する技術を学ぶ学科、土木、建設、海洋開発など社会基盤整備に関する技術を学ぶ学科、建築、設備、インテリアなど人々の暮らしに関する技術を学ぶ学科などに分けられます。

商業

商業活動を合理的、実践的に行うために必要な知識・技術などを学習します。関連する資格や検定の取得にも力を入れています。主に、商業や流通を学ぶ学科、会計実務を学ぶ学科、情報処理を学ぶ学科などに分けられます。

水産

水産業に関する技術や知識を学習します。漁業や水産加工品製造などの実習も行われています。主に、漁業活動や船舶機関、養殖技術を学ぶ学科と、水産物の加工技術や生産管理を学ぶ学科に分けられます。

家庭

人々の生活の質の向上に関する技術と知識を学習します。学校によって、衣食住の基本となる知識を学ぶコース、保育や高齢者介護に関する知識と技術を学習するコースに分かれています。また、食文化科や食物科など、調理師養成を目的とした学科もあります。

(3) 学区について

岩手県は、8学区に分けられています。それぞれの学区に含まれる市町村(区域)は次のとおりです。

※普通科の一部と専門学科、総合学科には、学区の制限がありません。

盛岡学区	・盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町 ・花巻市のうち旧大迫町及び旧石鳥谷町の区域 ・宮古市のうち旧川井村の区域
岩手中部学区	・花巻市、北上市、紫波町、西和賀町 ・遠野市のうち小友町及び旧宮守村の区域
胆江学区	・奥州市、金ケ崎町、平泉町 ・北上市のうち相去町
両磐学区	・一関市、平泉町 ・奥州市のうち旧衣川村の区域
気仙・釜石学区	・大船渡市、遠野市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町
宮古学区	・宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村
久慈学区	・久慈市、普代村、洋野町、野田村 ・岩泉町のうち安家
二戸学区	・二戸市、葛巻町、軽米町、九戸村、一戸町、 ・八幡平市のうち旧安代町の区域 ・洋野町のうち旧大野村の区域

(4) 令和5年度岩手県公立高等学校募集定員等一覧表

学校名	大学科	学区	学科・学系口コース	募集定員	学級数
盛岡第一	普通・理数	盛岡	普通・理数	280	7
盛岡第二	普通	盛岡	普通	200	5
盛岡第三	普通	盛岡	普通	280	7
盛岡第四	普通	盛岡	普通	240	6
盛岡北	普通	盛岡	普通	200	5
盛岡南	普通	盛岡	普通	120	5
	普通	制限なし	体育コース	40	
	体育	制限なし	体育	40	
不来方	普通	盛岡	人文・理数	120	6
	普通	制限なし	芸術	40	
	普通	制限なし	外国語	40	
	普通	制限なし	体育	40	
盛岡農業	農業	制限なし	動物科学	40	5
	農業	制限なし	植物科学	40	
	農業	制限なし	食品科学	40	
	農業	制限なし	人間科学	40	
	農業	制限なし	環境科学	40	
盛岡工業	工業	制限なし	機械	40	7
	工業	制限なし	電気	40	
	工業	制限なし	電子情報	40	
	工業	制限なし	電子機械	40	
	工業	制限なし	工業化学	40	
	工業	制限なし	土木	40	
	工業	制限なし	建築・デザイン	40	
盛岡商業	商業	制限なし	流通ビジネス	80	6
	商業	制限なし	会計ビジネス	80	
	商業	制限なし	情報ビジネス	80	
沼宮内	普通	盛岡	普通	40	1
葛巻	普通	盛岡	普通	80	2
平舘	普通	盛岡	普通	40	2
	家庭	制限なし	家政科学	40	
雫石	普通	盛岡	普通	40	1
紫波総合	総合	制限なし	総合	120	3
花巻北	普通	岩手中部	総合	240	6
花巻南	普通	岩手中部	人文科学・自然科学	120	5
	普通	制限なし	スポーツ健康科学	40	
	普通	制限なし	国際科学	40	
花巻農業	農業	制限なし	生物科学	40	3
	農業	制限なし	環境科学	40	
	農業	制限なし	食農科学	40	
花北青雲	工業	制限なし	情報工学	40	4
	商業	制限なし	ビジネス情報	80	
	家庭	制限なし	総合生活	40	
大迫	普通	岩手中部	普通	40	1
黒沢尻北	普通	岩手中部	普通	240	6
北上翔南	総合	制限なし	総合	200	5
黒沢尻工業	工業	制限なし	機械	40	6
	工業	制限なし	電気	40	
	工業	制限なし	電子	40	
	工業	制限なし	電子機械	40	
	工業	制限なし	土木	40	
	工業	制限なし	材料技術	40	
西和賀	普通	岩手中部	普通	40	1
水沢	普通・理数	胆江	普通・理数	240	6
水沢農業	農業	制限なし	農業科学	40	2
	農業	制限なし	食品科学	40	
水沢工業	工業	制限なし	機械	40	4
	工業	制限なし	電気	40	
	工業	制限なし	設備システム	40	
	工業	制限なし	インテリア	40	
水沢商業	商業	制限なし	商業	40	3
	商業	制限なし	会計ビジネス	40	
	商業	制限なし	情報システム	40	
前沢	普通	胆江	普通	80	2
金ヶ崎	普通	胆江	普通	80	2
岩谷堂	総合	制限なし	総合	120	3
一関第一	普通・理数	両磐	普通・理数	200	5
一関第二	総合	制限なし	総合	200	5
一関工業	工業	制限なし	電気電子	40	3
	工業	制限なし	電子機械	40	
	工業	制限なし	土木	40	
花泉	普通	両磐	普通	40	1
大東	普通	両磐	普通	80	3
	商業	制限なし	情報ビジネス	40	
千厩	普通	両磐	普通	120	5
	農業	制限なし	生産技術	40	
	工業	制限なし	産業技術	40	

学校名	大学科	学区	学科・学系口コース	募集定員	学級数
高田	普通	気仙・釜石	普通	120	4
	水産	制限なし	海洋システム	40	
大船渡	普通	気仙・釜石	普通	160	4
大船渡東	農業	制限なし	農芸科学	40	4
	工業	制限なし	機械電気	40	
	商業	制限なし	情報処理	40	
	家庭	制限なし	食物文化	40	
住田	普通	気仙・釜石	普通	40	1
釜石	普通・理数	気仙・釜石	普通・理数	160	4
釜石商工	工業	制限なし	機械	40	3
	工業	制限なし	電気電子	40	
	商業	制限なし	総合情報	40	
遠野	普通	気仙・釜石	普通	120	3
遠野緑峰	農業	制限なし	生産技術	40	2
	商業	制限なし	情報処理	40	
大槌	普通	気仙・釜石	普通	80	2
山田	普通	宮古	普通	40	1
宮古	普通	宮古	普通	200	5
宮古北	普通	宮古	普通	40	1
宮古商工	工業	制限なし	機械システム	40	5
	工業	制限なし	電気システム	40	
	商業	制限なし	総合ビジネス	40	
	商業	制限なし	流通ビジネス	40	
	商業	制限なし	情報ビジネス	40	
宮古水産	水産	制限なし	海洋生産	40	2
	家庭	制限なし	食物	40	
岩泉	普通	宮古	普通	80	2
久慈	普通	久慈	普通	160	4
久慈東	総合	制限なし	総合	200	5
久慈工業	工業	制限なし	電子機械	40	2
	工業	制限なし	建設環境	40	
種市	普通	久慈	普通	40	2
	工業	制限なし	海洋開発	40	
大野	普通	久慈	普通	40	1
堅米	普通	二戸	普通	80	2
伊保内	普通	二戸	普通	40	1
福岡	普通	二戸	普通	160	4
福岡工業	工業	制限なし	機械システム	40	2
	工業	制限なし	電気情報システム	40	
一戸	総合	制限なし	総合	120	3

学校名	大学科	学区	学科・学系口コース	募集定員	学級数
盛岡市立	普通	※	特別進学コース	35	7
	普通	※	普通	160	
	商業	制限なし	商業	80	

※ 県立高校とは異なる学区がある。

<定時制>

学校名	大学科	学区	学科・学系口コース	募集定員	学級数
杜陵	普通	制限なし	1・2部	80	4
	普通	制限なし	3部	20	
杜陵奥州	普通	制限なし	昼間部	30	2
	普通	制限なし	夜間部	30	
盛岡工業	工業	制限なし	工業	40	1
一関第一	普通	制限なし	普通	40	1
大船渡	普通	制限なし	普通	40	1
釜石	普通	制限なし	普通	40	1
宮古	普通	制限なし	普通	40	1
久慈長内	普通	制限なし	昼間部	40	2
	普通	制限なし	夜間部	40	
福岡	普通	制限なし	普通	40	1

<通信制>

学校名	大学科	学区	学科・学系口コース	募集定員
杜陵	普通	制限なし	普通	220
宮古	普通	制限なし	普通	80



【保護者用】中学生の進路希望等に関するアンケート

進路希望等に関する以下の項目について、あなたの考えをお聞かせください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク を塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク : 正しいぬりつぶし : 不十分なぬりつぶし

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

- (1) Q あなたの子どもが通っている中学校または義務教育学校がある市町村を教えてください。（1つにマーク）
- | | | | | | |
|----------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| <input type="radio"/> 盛岡市 | <input type="radio"/> 滝沢市 | <input type="radio"/> 八幡平市 | <input type="radio"/> 雫石町 | <input type="radio"/> 葛巻町 | <input type="radio"/> 岩手町 |
| <input type="radio"/> 紫波町 | <input type="radio"/> 矢巾町 | <input type="radio"/> 花巻市 | <input type="radio"/> 北上市 | <input type="radio"/> 西和賀町 | <input type="radio"/> 奥州市 |
| <input type="radio"/> 金ケ崎町 | <input type="radio"/> 一関市 | <input type="radio"/> 平泉町 | <input type="radio"/> 大船渡市 | <input type="radio"/> 陸前高田市 | <input type="radio"/> 住田町 |
| <input type="radio"/> 釜石市 | <input type="radio"/> 遠野市 | <input type="radio"/> 大槌町 | <input type="radio"/> 宮古市 | <input type="radio"/> 山田町 | <input type="radio"/> 岩泉町 |
| <input type="radio"/> 田野畑村 | <input type="radio"/> 久慈市 | <input type="radio"/> 普代村 | <input type="radio"/> 洋野町 | <input type="radio"/> 野田村 | <input type="radio"/> 二戸市 |
| <input type="radio"/> 一戸町 | <input type="radio"/> 軽米町 | <input type="radio"/> 九戸村 | | | |
- (2) Q 子どもが高校へ進学する場合、高校選択で重視することは何ですか。（3つ以内でマーク）
- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 学習内容 | <input type="radio"/> 学校行事 | <input type="radio"/> 進路（進学・就職）実績 | <input type="radio"/> 生徒の様子 |
| <input type="radio"/> 部活動 | <input type="radio"/> 施設設備 | <input type="radio"/> 教員の指導力 | <input type="radio"/> 就学に関する費用 |
| <input type="radio"/> 通学の便、通学の時間 | <input type="radio"/> 制服 | <input type="radio"/> 校則 | <input type="radio"/> 歴史と伝統 |
| <input type="radio"/> 合格の可能性 | <input type="radio"/> 友達と一緒に | <input type="radio"/> 中学校の先生の勧め | <input type="radio"/> 塾の勧め |
| <input type="radio"/> 家族の勧め | <input type="radio"/> 先輩の勧め | <input type="radio"/> 家族が卒業生あるいは在校生 | <input type="radio"/> 特になし |
| <input type="radio"/> その他 | | | |
- (3) Q 高校の学習で希望すること、重視すべきと思うことは何ですか。（1つにマーク）
- | | |
|---|---|
| <input type="radio"/> 就職に役立つ知識や技術に関する学び | <input type="radio"/> 大学受験に必要な学び |
| <input type="radio"/> 基礎学力の向上につながる学び | <input type="radio"/> 地域づくりなど地域の活性化につながる学び |
| <input type="radio"/> 世界で活躍できる人材育成につながる学び | <input type="radio"/> パソコンやタブレットなど情報機器を使用した学び |
| <input type="radio"/> 実験や実習活動など実践的な学び | <input type="radio"/> 海外研修を取り入れた学び |
| <input type="radio"/> 企業研修を取り入れた学び | <input type="radio"/> その他 |
| <input type="radio"/> わからない | |
- (4) Q 子どもの卒業後の進路をどのように考えていますか。（1つにマーク） ⇒ 別紙資料(1)を参照
- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|
| <input type="radio"/> 全日制の公立高校 | <input type="radio"/> 全日制の私立高校 | <input type="radio"/> 高等専門学校（高専） |
| <input type="radio"/> 定時制の高校 | <input type="radio"/> 通信制の高校 | <input type="radio"/> 就職（家業を含む） |
| <input type="radio"/> その他（専門学校などを含む） | <input type="radio"/> まだわからない | |

★マークのしかた



- (5) Q 進学先として(4)で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。(1つにマーク)
- 学びたい学科があるから 部活動が盛んだから(希望する部があるから) 進学・就職に有利だと思うから
- 地元の学校だから 働きながら学べるから 家族・親・先生がすすめてくれるから
- 雰囲気やイメージがよいから その他
- (6) Q 子どもに進学先としてどの学科を勧めますか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(2)を参照
- 普通科 理数科 外国語に関する学系
- 体育に関する学科・学系 芸術に関する学系 農業に関する学科
- 工業に関する学科 商業に関する学科 水産に関する学科
- 家庭に関する学科 総合学科 どの学科でもよい
- その他 わからない
- (7) <注意> 次の質問は、(6)の質問で「普通科」または「理数科」と答えた方で、県立高校へ進学させたい方のみ回答してください。(盛岡市立は除く)
- Q 進学させたい学校にあてはまるのはどれですか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(3)、(4)を参照
- 学区内にある 学区外にある その他(県外の公立、県内まだ決まっていない外の私立高校)
- (8) <注意> 次の質問は、(6)の質問で「農業に関する学科」、「工業に関する学科」、「商業に関する学科」、「水産に関する学科」、「家庭に関する学科」または「総合学科」と答えた方のみ回答してください。
- Q 子どもに学ばせたい高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(1つにマーク)
- 専門分野を学びたい 専門分野以外も学びたい 入学後に専門分野を決めてよくわからないから学びたい
- (9) Q 県立高校普通科の学区制について、どのように思いますか。(1つにマーク) ⇒ 別紙資料(3)を参照
- 現在の8学区のままがよい 今の学区を拡げるのがよい
- 学区をなくし、どの地域からも入学できるようにするのがよい わからない
- (10) Q 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。(1つにマーク)
- 主に徒歩、自転車で通学可能な範囲まで 主にバス、列車で通学可能な範囲まで
- 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで 自宅から通学できない範囲でもよい
- その他 わからない
- (11) Q 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えていますか。(1つにマーク)
- 30分以内まで 1時間以内まで 1時間30分以内まで
- 2時間以内まで その他 わからない
- (12) Q 通学にかけてもよいと思う金額をどの程度までと考えますか。(1つにマーク)
- 年1万円以内 年3万円以内
- 年5万円以内 年10万円以内
- 年15万円以内 その他
- わからない

★マークのしかた



(13) Q 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模（学級数）の高校がよいと思いますか。（1つにマーク）
⇒ 別紙資料(4)を参照

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> 各学年、1学級（40人）規模の高校 | <input type="radio"/> 各学年、2～3学級（80～120人）規模の高校 |
| <input type="radio"/> 各学年、4～6学級（160～240人）規模の高校 | <input type="radio"/> 各学年、7学級以上（280人以上）の規模の高校 |
| <input type="radio"/> その他 | <input type="radio"/> よくわからない |

(14) Q 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。（1つにマーク）

- | | |
|--|---|
| <input type="radio"/> 大学・短大へ進学したい | <input type="radio"/> 専門学校（専修学校、各種学校）へ進学したい |
| <input type="radio"/> 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である | <input type="radio"/> 岩手県内で就職したい |
| <input type="radio"/> 岩手県以外で就職したい | <input type="radio"/> 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である |
| <input type="radio"/> まだわからない | |

(15) Q 子どもは将来どこで働いていると思いますか。（1つにマーク）

- | | |
|---------------------------------------|---|
| <input type="radio"/> 今住んでいる市町村で働いている | <input type="radio"/> 岩手県内（今住んでいる市町村以外）で働いている |
| <input type="radio"/> 岩手県外で働いている | <input type="radio"/> まだわからない |

議題（５）その他：説明資料

県立高等学校教育の在り方検討会議 開催日程及び検討内容等

回	時期	項目	検討内容
第1回	6月8日 (木)	①座長・副座長の互選 ②県立高等学校の現状等 ③現行計画の推進状況 ④中学生進路希望アンケート	①互選 ②意見交換 ③現行計画の評価 ④アンケート項目や実施方法
第2回	9月	①岩手の高等学校教育の基本的な考え方 ②県立高校の在り方 ③学びの環境整備(高校再編の考え方) ④高校教育の充実に向けた方策	①岩手の高校教育の基本的な考え方や目指すべき姿の明示 ②岩手の高校教育の目指すべき姿を達成するための県立高校配置の検討 ③生徒減少に対応しながら、教育を受ける環境や地域との連携・協働など、高校生の学びの環境の在り方を検討 ④普通高校、専門高校、総合学科高校、定通制高校、中高一貫教育、普通科改革、単位制導入等の方向性を検討し、高校教育の充実に向けた方策について意見交換
第3回	11月	①岩手の高等学校教育の基本的な考え方(2回目) ②県立高校の在り方(2回目) ③学びの環境整備(高校再編の考え方)(2回目) ④高校教育の充実に向けた方策(2回目)	④普通高校、専門高校、総合学科高校、定通制高校、中高一貫教育、普通科改革、単位制導入等の方向性を検討し、高校教育の充実に向けた方策について意見交換
第4回	R6年3月	①基本方針「今後の高等学校教育の基本的方向」(中間まとめ) ②県立高等学校教育の在り方地域別検討会議	①検討内容に関する中間まとめについて検討 ②地域別検討会議について検討
ブロック別 検討会議	R6年5月 ～6月	検討会議における検討内容に関する意見交換	県内9ブロックで開催予定 (盛岡、岩手中部、胆江、両磐、気仙、釜石・遠野、宮古、久慈、二戸)
第5回	R6年7月 ～8月	①地域別検討会議開催結果 ②意見に基づく観点別検討 ③基本方針「今後の高等学校教育の基本的方向」(素案)	①地域別検討会議の開催結果について ②地域別検討会議における意見への対応について検討 ③検討内容に関する中間まとめ(素案)について意見交換
第6回	R6年9月 ～10月	①基本方針「今後の高等学校教育の基本的方向」(素案)(改訂版)	①検討内容に関する中間まとめ(素案)の修正案について意見交換

※開催時期は現時点での予定であり、第2回以降の開催期日につきましては、座長の日程を優先して調整のうえ、決定させていただきます。